

泉佐野  
発

日本一の「ひとづくり」のまちへ

泉佐野市会議員

千代松 大耕 (33歳)

ちよまつ ひろやす

# 市政報告

変わらない挑戦。  
進化する改革。



## 6月定例会市議会

3月議会では鶴原共同浴場建替や次世代育成地域交流施設整備に對しての複数の会派による反対のため、採決の結果、予算案は一旦、否決となっていました。その後、鶴原共同浴場建替と次世代育成地域交流施設（以下、次世代施設）整備の予算を削除したものを理事者側は議案に提出し、再び予算特別委員会での審議を経て本会議での採決の結果、賛成多数によって平成19年度の泉佐野市一般会計予算が成立いたしました。

今回の6月定例会市議会の争点となりましたのは、3月議会で削除された鶴原共同浴場の建替や次世代施設の整備を再び盛り込んだ一般会計補正予算の審議でありました。次世代の補正予算に關しましては3月時点での測量、設計の予算流用を行ったために、一部の議員からは「違法行為ではないか。」といったような反発によって議案開始が4時間遅れるといった事態もありました。

次世代施設の必要性については、第三中学校区の手地区の地元住民のかねてからの要望であり、途中何度か位置付けや名称の変更はあったものの、向江前市長時代の合意に基づいて新田谷市長が地元の強い要望を汲み取り、市長交代があつたにもかかわらず方針を変更することなく、厳しい財政状況に置かれた中でも様々な計画に織り込んできたものでした。前市長時代の合意とは第三中学校区の公民館計画といったもので、まず山の手地区に公民館的なものを建設し、その後旧税務署跡地に公民館本館を建設するといったものでした。新田谷市長は財政健全化を進める中でこの事業については職員配置をしない方針のもとに地域の町会に自主運営を提案してきましたが、町会側からは自主運営に要するコストを自治会費で負担してまでは運営が困難との意見が示されてきた経過の中で次世代交流事業を推進しようとしていた児童福祉政策とマッチして、加えて大阪府下の一つの自治体しかあたらぬ宝くじ助成金1億円も受けられるようになったということもあり、今回の予算上程に至ったことでもあります。この事業は地元が長年に渡って待ち焦がれていた事業であり、そしてようやく今回の本会議での補正予算の可決で実現の運びへととなりました。また今後、泉佐野市としては第三中学校区の公民館本館と日根野校区の公民館を建設する予定であります。

予算の流用が市長の予算執行権の逸脱・濫用にあたり違法とされた例として共産党の議員は議員協議会などで武蔵村山市の事例を紹介しました。武蔵村山市のケースは市が相当期間に渡り使用する方針を打ち出していた施設を、特定の病院誘致の話が持ち上がったことにより急遽方針を変更し、当該施設の解体とあわせて周辺道路も整備するという予算案を議会上程しました。当然特定の病院といったこともあって、唐突な方針転換に對して議案からの反発もあり、予算案は削除・修正されました。その後、再度同様の内容で提出した補正予算が否決されたにもかかわらず、否決直後にそれに對抗するように、当該年度の予算を流用し、施設を解体、道路整備までしてしまつたというものであります。このケースからしますと、泉佐野市の場合、仮に6月議会での補正予算が否決されていたとして、その後、その議決に新田谷市長が對抗して予算を流用し次世代育成

地域交流施設の整備を進めたとしたならば、そのときには市長の予算執行権の逸脱・濫用という判断が下される場合があるのかもしれないが、3月時点で泉佐野市が行なつた流用の内容とは明らかに性質が異なるものであり、また事業に關しても武蔵村山市の場合は急遽方針を変更したものであるの比べ泉佐野市の場合では長年に渡って財政健全化計画の中におきましても計画に織り込まれていたものであつたことから全くもって参考とすべき判例とはならないと私は考えます。

そして予算の流用の法的な位置付けですが、地方自治法におきましては、款・項を超える流用は原則禁止されていますが、ただし書きの規定で項については、予算で定める範囲での流用が認められています。3月議会の流用についてもそういった形でなされたものと認識しています。予算の執行に關しては、予期しなかつた事業も出てきます。その都度全てを計上して議決を経なければ執行できないというようなかたちでは緊急的な対応ができません。そのようなことから市長の裁量権の範囲で、流用するという対応は実態に即した対応として認められているところであると考えます。

以上のことから、何が責められるべきであり、それに対してどう対処するかということ整理いたしますと、議案審議中であつたことを考慮すれば、議会に對して市長がしかるべき説明責任を果たさなかつたということと、それにより議会との信頼関係を損なつたということにつきるのではないかと考えます。しかしこの点に關しましては、全員協議会や厚生文教委員会等で何度も新田谷市長からの謝罪がありました。そして今後は自らの処分もしていくとことでした。市議会としては、その謝罪と今後の対応を見守ることで信頼関係の修復に努めるべきだと私は考えます。

## 5月臨時議会

泉佐野市議会では5月臨時議会におきまして役員改選が行われました。新しい正副議長には、議長に鈴木雅弘氏（4期目）会派、公明党、副議長に松浪武久氏（2期目）会派、躍進がそれぞれ選出されました。私は今回の改選で、自由民主党泉佐野市会議員団の幹事長となり、議会運営委員会の一員となりました。正副議長と協力しながら議会改革に取り組みしていきたいと考えています。

また特設委員会である行財政委員会の委員長をあわせて拝命することになりました。泉佐野市におきましては、平成16年3月の財政非常事態宣言の後、平成18年度末までの3カ年で30億円にのぼる累積赤字の解消を目標とした財政健全化計画（修正）を策定しました。これにつきましては市民の方々の多大なるご協力とご理解のおかげをもちまして、30億円の累積赤字の解消を達成することができました。しかし累積赤字を解消できたからと言いましても以前のような行政を行なつてしまえば、すぐさま財政状況が厳しくなつてしまいます。また総務省は地方自治体の財務状況を連結決算でも見ていく方針を出しています。連結ベースで見ると泉佐野市は全国でもワースト10に入るような状況です。そういった中で泉佐野市の行財政について議論していく行財政委員会の委員長としては、今後も行財政改革について色々な提言をしていけるような委員会運営をしていきたいと考えています。

## 小規模特認校

泉佐野市立大木小学校では、地域の豊かな教育資源をいかした山菜採りや川遊びなどの野外活動、地域の歴史や伝統を大切にしながら体験学習、野山の散策や地域の生物を通して環境教育など様々な教育活動を全校児童が参加し協力しながら行っています。しかし平成20年度以降児童数の大幅な減少が予想され、このままでは、子どもたちの集団活動をはじめ、こういった多様な学習活動そのものができなくなることが懸念されています。そこで泉佐野市教育委員会では、平成20年度から大木小学校を一定の条件のもとで特別に泉佐野市内全小学校区から児童が通学できる小規模特認校に指定しました。

小規模特認校とは学校の特色ある教育環境のもと、小規模校における教育の特性を活かし、一人ひとりの個性に応じたきめ細やかな指導の中で、豊かな人間性を培い、明るく伸び伸びとした教育を希望する児童・保護者に一定の条件で通学区域外（市内に限る）からの転入学を認めるものです。

### 就学条件

- ・泉佐野市内の住居を有し、泉佐野市立小学校に就学している児童、または就学を予定している児童の保護者であること
- ・保護者は自らの責任と負担において、児童を通学させること
- ・保護者は大木小学校の教育活動などについて理解し、協力ができること
- ・中学校は、住所地の通学区域にある中学校とすること
- ・その他、教育委員会並びに大木小学校の指示に従うこと

## 今後の「かけはし」予定

千代松大耕が市民のみなさまと市政をつなぐ架け橋となるため、市政勉強会「かけはし」を月に一回開催しています。前半は私がその時々テーマをお話します。後半は市民の方々の意見交換やご質問にお答えいたします。どなたの参加もOKです。お待ちしております！

第30回「かけはし」… 7月26日(木)

第31回「かけはし」… 8月23日(木)

第32回「かけはし」… 9月27日(木)

- 場所 泉の森ホール 2F 小会議室
- 参加費 **無料**
- 時間 19:30~20:30

## ミニ集会で意見交換をしませんか?

2~3人の少人数でも構いませんので、市や地域の課題に関して、千代松大耕と意見を交換したいという方はご連絡ください。平日・午前中・昼間でもスケジュールが合えば、どこにでもお伺いします。

## 携帯用メールマガジンを開設しています!



携帯版「千代松大耕のニュースレター」の購読を希望される方は、左のバーコードを携帯電話で読み取るか、<http://mini.mag2.com/> または「千代松大耕ホームページ」から登録してください。

DoCoMo/au/SoftBank

## 千代松大耕プロフィール

- 1973.10.3 泉佐野市松原生まれ  
 1986.3 泉佐野市立第一小学校 卒業  
 1989.3 泉佐野市立佐野中学校 卒業  
 1992.3 同志社香里高等学校 卒業  
 1996.3 同志社大学経済学部 卒業  
 1998.7 米国Lincoln University 大学院 修了  
 2003.3 大阪府立大学大学院 修了  
 2005.3 和歌山大学大学院 修了  
 1999.4 株式会社 堀場製作所 入社  
 2000.2 泉佐野市議会議員初当選  
 2002.5 泉佐野市議会議員2期目当選  
 2006.5 泉佐野市議会議員3期目当選  
 (議会)  
 2003.5 市町村合併検討委員長  
 2004.5 第61代副議長  
 2005.5 厚生文教委員長  
 2006.5 監査委員  
 2007.5 行財政委員長

- (現在) (社) 泉佐野青年会議所 専務理事  
 (NPO) 大阪夢づくり協議会 理事  
 泉佐野市バレーボール連盟 会長  
 泉佐野市柔道連盟 理事  
 佐野中校区青少年指導員会 会長  
 泉佐野市交通指導員  
 泉佐野市私立幼稚園連合会 顧問  
 泉佐野青空市場活魚協同組合 顧問  
 (社) 全国自衛隊父兄会泉南支部 顧問  
 同志社大学体育会アメフト部OB会 常任理事  
 佐野中柔道部OB会 相談役  
 看護を考える市町村議員の会 副幹事長  
 自由民主党泉佐野支部 政務調査会長

## 千代松大耕メールマガジン

「千代松大耕のニュースレター」を発行しています!

市政や議会の情報をいち早く市民のみなさまに、お伝えするためにメールマガジンを発行しております。(週に3~4回は、発行しています)

メルマガの登録は、千代松大耕のホームページ、または下記のアドレスからできます。

ホームページアドレス: <http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>

登録ページアドレス: <http://www.mag2.com/m/0000156662.html>

ひとりでも多くの方に登録していただければ幸いです。

※検索サイトで「千代松大耕」と検索していただければ、私のホームページにヒットします。

連絡先 泉佐野市松原2-5-31

TEL 458-1708

FAX 469-0311

ホームページ <http://www3.ocn.ne.jp/~chiyo51/>

メール [chiyoma51@hotmail.com](mailto:chiyoma51@hotmail.com)

発行部数累計 557,500部 第49号

\*「まちスケ」のバックナンバーが必要な方は連絡ください。